令和８年第１回芸西村議会定例会　一般質問通告一覧表

一般質問（第２日）：令和８年３月12日（木）

Ｎｏ．１

質 問 者	質　問　の　件　名	質　　問　　の　　要　　旨	答弁を求める者
岡村 星弥	農業経営の安定化と全農家に対する持続可能な支援の拡充を	基幹産業である農業を守るため、規模や品目を問わず、全農家が直面するコスト高騰の課題について、村長の認識を問う。 国や県の補助制度では、カバーしきれない現役農家に対し、村独自の資材・燃料費支援や販売戦略の構築による支援の拡充について、村長の見解を問う。	村　長
	湛水防除事業による農地の防災機能強化と河口対策を含めた住民の安全確保を	和食川下流域での排水ポンプ増設に向けた調査設計が予定されており、基幹産業と住民の財産を守る最重要の事業である。 安芸農業振興センターへの働きかけや連携を含め、どのように事業の実効性を担保し、住民の安心感につなげていくのか、村長の認識を問う。	村　長
山本 俊二	高架下の有効活用について	高架下の有効活用について、どのように考えているか。	村　長
安岡 公子	不登校児童・生徒支援のための環境整備は	・教育支援センターには数名の登録があるが、現在そこに通っている児童・生徒はいないと聞いている。学校内のサポートルームへも登校できていない子どもさんもいると聞いているが、家庭で過ごしている場合、その児童・生徒の学習権は保障されていると言えるのか ・学校内での不登校児童・生徒のサポート体制はどのようになっているのか ・現在の教育支援センターの場所は、良い教育環境とは言えないと考えるが、環境整備の必要があるのではないか ・教育施設集約化事業の設計段階で、専門家の意見も聞きながら、校内サポートルームの配置、環境整備に取り組んで行くことをどう考えるか	教育長
	防災力強化の取り組みは	・年々防災訓練への参加率が下がっている状況をどう捉えているか ・訓練が部落ごとに決められている場所へ逃げることに画一的になっていないか ・サイレンが鳴ったら、どこにいても近くの安全な場所に避難することへの徹底が必要ではないか ・村民への啓発方法をもっと検討する必要があるのではないか ・自主防災組織がなぜ弱体しているのか、立て直し策をどう考えるか ・避難路のブロック塀の除去がまだまだ進んでいない ・何年間かの達成目標を設定してマップに落とし、村内を個別に訪問して知らせ、机で待つのではなく、出て行って啓発し、撤去・改修を促す事も大事ではないか	村　長

質　問　者	質　問　の　件　名	質　　問　　の　　要　　旨	答弁を求める者
堀川 友久	人口増について今後の展望は	人口増加のために、基幹産業だけでなく、何か別の考えがあるのか。	村　長
西笛 千代子	大規模災害時の初動対応と備蓄品について	・初動対応について まずは、避難所や自宅の水洗トイレの使用を止める対策が必要と考える。上下水道の確認が取れてから使用することなど。 ・備蓄品について 避難所において、障がい者や高齢者のために、トイレやベッドの手すりなどの補助用具が備蓄品に必要だと考える。 ・自主防災組織の備蓄品 備蓄品の中に消火器がある地域が多いが、リストによると平成27、28年に購入しているが、使用期限が過ぎている地域もある。 購入には県の補助金が使えるが、廃棄処分の費用が部落負担になる。今後、廃棄処分の費用を村で補助できないだろうか。	村　長
	防災訓練について	昨年12月６日の村内一斉防災訓練に参加した住民が少ないように感じる。自主防災組織との連携など、今後どのような形で行っていくのかを問う。	村　長
濱田 圭介	事前復興計画について	防災・減災対策と並行して行うものとされているのが事前復興であり、できるだけ早期に取り組むべきものと考える。 本村の事前復興計画については、策定に向けた業務委託を本年度に施行しており、取り組みは進んでいると認識しているが、今後のスケジュール、及び策定に向けた具体的な取り組みについて聞く。	村　長
	非常食について	非常食については、随時入れ替えを行いながら一定量を備蓄しているが、食における要配慮者（乳幼児、高齢者、アレルギー、信仰等による食のタブー者など）及び栄養面への対応、並びに備蓄方法（固定備蓄、流通備蓄）について現状と課題、今後の取組みを聞く。	村　長